

## 活用組合（概要）

組合名：奈良県高山茶釜生産協同組合

所在地：奈良県生駒市高山町

組合員：18名

活動内容

室町時代より約500年の歴史を持つ高山茶釜の伝統を守り、次の世代へ伝えることを目的に設立。

組合員の取り扱う茶釜等の容器や原材料となる淡竹の共同購買の実施や組合内に技術指導部を設け、伝統工芸士による後継者育成を行っている。



## 中長期的課題

### 【原材料「淡竹」の確保難】

- ①業者の高齢化等による仕入先の減少
- ②全国の竹林で竹が枯れる兆候
- ③災害による各地の山林被害

### 【解決策】

「新たな淡竹確保に係る現地調査」

- ①長野県（関係団体による情報提供）
- ②熊本県（竹林事業者による情報提供）

※「竹に関する委員会」委員が調査を実施



## 取組結果

### 【成果】

#### ①熊本県（竹林：2か所）

町内の竹林と大分県との県境にある竹林等の現地調査及び品質等の確認を行う。

質・量ともに問題ないが、現地協力者の切り出す竹が太いことから茶釜製造に必要な竹の質を理解いただくことが課題である。また、輸送コストが高いことも課題の一つである。

#### ②長野県南部（竹林：5か所）

現在、細い竹は処分されている。処分していた竹を買い取っていただけるなら前向きに協力したいとのこと。品質として硬さもあり、肉厚でしっかりしており、茶釜製造に向いている。

#### ③長野県北部（竹林：3か所）

こちらは雪が多い地域。雪の重さで曲がっている竹が見受けられた。曲がった竹が、茶釜製造に影響が出ないか不明。竹の下部、1.5mほどを使用するので影響はないと思われるが、確認するには時間がかかる。

### 【まとめ】

有力な原材料確保先の開拓につながった。今回の取組により組合員の事業継続の意欲を高め、産地の継続及び伝統工芸の伝承につながることが期待できる。

調査にあたって若手の方にも参加いただき、茶釜師として必要な竹の目利きを伝えることができたことも成果。

また、現地協力者へ茶釜製造に必要な淡竹の質などをあらためて説明できたこと、行政の担当者とのネットワークづくりができたことも今後につながる成果となった。

